

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 明浄学院高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 545 - 0004
大阪府大阪市阿倍野区文の里 3 - 1 5 - 7

E-mail h-takara@meijo.ed.jp h-takara@gmail.com
Website <http://www.meijo.ed.jp/>

幼児児童生徒数 男子 0 名 女子 570 名 合計 570 名
幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「グローバルな視野をもって活躍できる女性」を学校理念 (※もしくは活動テーマ) として、ESD の実践を通して、教育方針を達成することを目標とした。

具体的には、国際交流・人権教育・伝統教育・ボランティアを柱に、①国際交流に係わる活動、②人権教育に係わる教育、③伝統文化についての学習、④ボランティアに係わる学習を行った。

① 国際交流に係わる活動

国際理解の第一歩として、外国語を学ぶカリキュラムを工夫しています。1 年次で少人数の英会話の授業をネイティブの先生にしてもらいます。2、3 年生では外国語選択による英会話、韓国語会話、中国語会話の授業がある。英会話の時間には英語俳句にも取り組み、「第 1 回明浄学院外国語俳句大賞」に応募。韓国語を熱心に学んでいる生徒たちは韓国のユネスコスクールとの交流に積極的に参加します。今年度は、韓国からの生徒受け入れに加えて、新たにマレーシア・アメリカからの生徒を迎え、本校内で交流活動を行った。

② 人権教育に係わる教育

人権教育でも国際理解と女子教育をテーマとして取り上げました。特に女子の識字教育の重要性を理解することをめざしています。ユネスコクラブと生徒会を中心に取り組んでいる Room to Read はそれに通じる活動です。年度末にはワンワールドフェスティバルに参加し、図書館を立てる運動についてアピールした。

③ 伝統文化についての学習

自国の文化の理解は異文化を尊重する態度も養います。本校は伝統文化教育も大きな柱として取り組んでいます。とりわけ、和歌や俳句は長く続く学校行事があります。1年生全員がうける和歌の授業は、綿密な授業計画が作られ、生徒たちは自然に感性を開花させていきます。各地の和歌や俳句等のコンテストにも応募しますが、特に、宮中歌会始めには毎年全校生徒が様式にのっとり墨書し、和歌を詠進します。毎年2月に催している和歌披講会は、京都冷泉家の指導により、古式にのっとりた和歌披講の作法を学び、秀歌を披講するものです。厳粛な空気の中、奉仕諸役の生徒たちが、難波津の歌、本校詠進歌6首と天皇陛下のお歌を伝統の作法で披講しました。本校では3年生の一部生徒を除き、大部分の生徒が書道の授業を受けます。(1、2年生は全員が書道を学ぶカリキュラムになっています。) 詠進歌を墨書するほか、生活に生かせる書道も学びます。展覧会には全員が出品し、学校としても団体賞を受賞しました。

④ ボランティアに係わる学習

ユネスコクラブのみならず、他のクラブも地域に貢献している。例えば吹奏楽部は地域(阿倍野区昭和町)のイベントに参加している。ESDワークショップでの学びは「身近なところからはじめる」を合言葉にしており、誰でもできる活動として校内外の美化活動やエコキャップ活動が行われている。学校単位では、近隣の清掃活動や、献血の呼びかけ(看護コース生徒)を行った。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本年度は学年の行事やクラブでの活動の範囲内で学習を行った。学外のネットワークで得られた学びは、生徒・教員ともに多々あったが、それらを学内にどう浸透させるかが課題となった。学院祭でクラブ発表を行ったり、クラブではなく生徒会を主体として外部のイベントにも参加したが、やはり以前学内への浸透が課題として残っている。
次年度は、第一学年に対して、総合的な学習の時間のなかで ESD の学習、そして地域とともに課題解決型学習を実施することが決定している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本年度は ESD の概念や学習法について教員も学べるよう、所属ネットワークへの臨場研修に参加してもらった。しかし、ごく少数で、いまだ組織的に活動できる状況ではない。このような状況を鑑みて、次年度は学年で ESD の教育に取り組むことに決定した。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校活動の評価を内部・外部ともに行うことができていない。
まず学校内での評価を行うことを目標とする。
（新1年生では学年で取り組むため。）

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

現時点では他校教員との交流・情報交換にとどまっている。
活動成果を発表する場であった、ワンワールドフェスティバルでは、他校教員と情報交換することができ、他府県のネットワーク主催のイベントに生徒がみずから参加申し込みをし、ワークショップに参加したというケースがあった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

現在本校は大阪 ASPNet に所属しており、連携しながら、活動に取り組んでいる。現在のところ、このネットワークでのワークショップで得られた知見や、学習方法を持ち帰り、自校で再現してみたり、活用している。例えば、このネットワークで得られた手法を用いて、本校で韓国の姉妹校生徒との交流プログラムで実施した。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

現在、韓国の密陽女子高等学校と年に1度、生徒・教員交流事業を行っている。
本年は、政治情勢等もあり、本校から韓国の高校への訪問は中止としたが、韓国からの訪問は受け入れることができた。
次年度以降は、韓国以外の国のユネスコスクールと交流できるよう、検討している。現段階ではマレーシアのユネスコスクールとの交流が候補として挙げられている。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

まず、生徒の意識は明らかに変化したと見て取れる。「ESD」「阻害」という言葉が頻繁に聞こえるようになり、ESD の学習会に来年も参加したいという声が上がっている。私自身もはじめて担当者になり、「持続可能」にたいするイメージが大きく変わった。しかし、これを他の教員や生徒に伝えるのは困難だと感じており、ワークショップに参加する以外には、と考えている状況である。学年全体で年間を通して ESD の学習に努めることで、教員・生徒の意識や理解を深めたいと考えている。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

大阪ユネスコス쿨ネットワークの活動に引き続き参加し、ユネスコクラブ部員と、生徒会を中心に ESD の学びを実施する。
また、17 年度に教員が臨場研修等を通して学んだ、ESD についての学習を応用し、本校でも第一学年全体で 1 年を通して学習する予定。内容としては、ESD を阻害する要因・身近な ESD の学習を通して学びあいを実施したい。
国際交流の面では、引き続き韓国ユネスコス쿨の密陽高校と交流を行う。今後の方針としては、海外のユネスコス쿨とさらに協力して学び合いを行えるよう提携校が増えればと考えている。